

高野山真言宗  
紫雲山菩提院  
西光寺

四国三十三観音霊場  
第2番札所  
百八観音霊場  
第41番札所



〒771-1702  
徳島県阿波市  
阿波町稲荷53  
TEL 0883-35-2784  
ホームページ  
<https://saikouji.tokushima.jp>  
発行所 西光寺  
発行人 澤 善弘

ご本尊 阿弥陀如来 ご縁日  
**本尊護摩供**

毎月15日 午前10時より 8月は午後7時



三乗堂さまによる修復作業中、久勝小学校3年生の児童たちが社会科見学に訪れました



**弘法大師坐像**

**修復終える**

西光寺に伝わる「弘法大師坐像（こうぼうだいしざそう）」は「西光寺の山門」とともに阿波市指定有形文化財に指定されております。寺伝では室町時代の作と伝わり、徳島県内でも古さの点で5指に入るとされます。

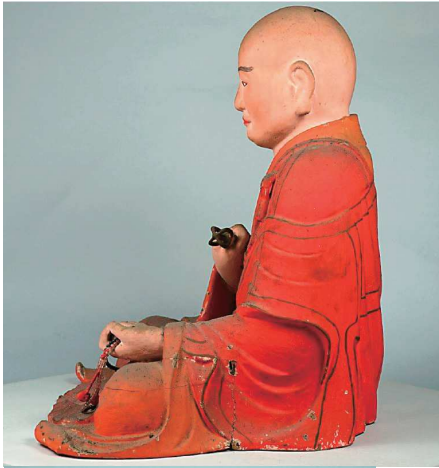
当大師像は歴代住職、檀信徒の皆さまにより永年に亘り拜まれ、大切に護られて参りました。

江戸時代に修復されたことが底面の墨書により判っておりませんが、近年は堆積した埃（ほこり）色彩層が失われた箇所や動物のかじり跡などがあり、尊容を損ねている状態でした。

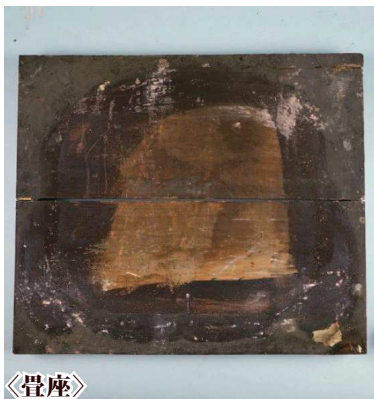
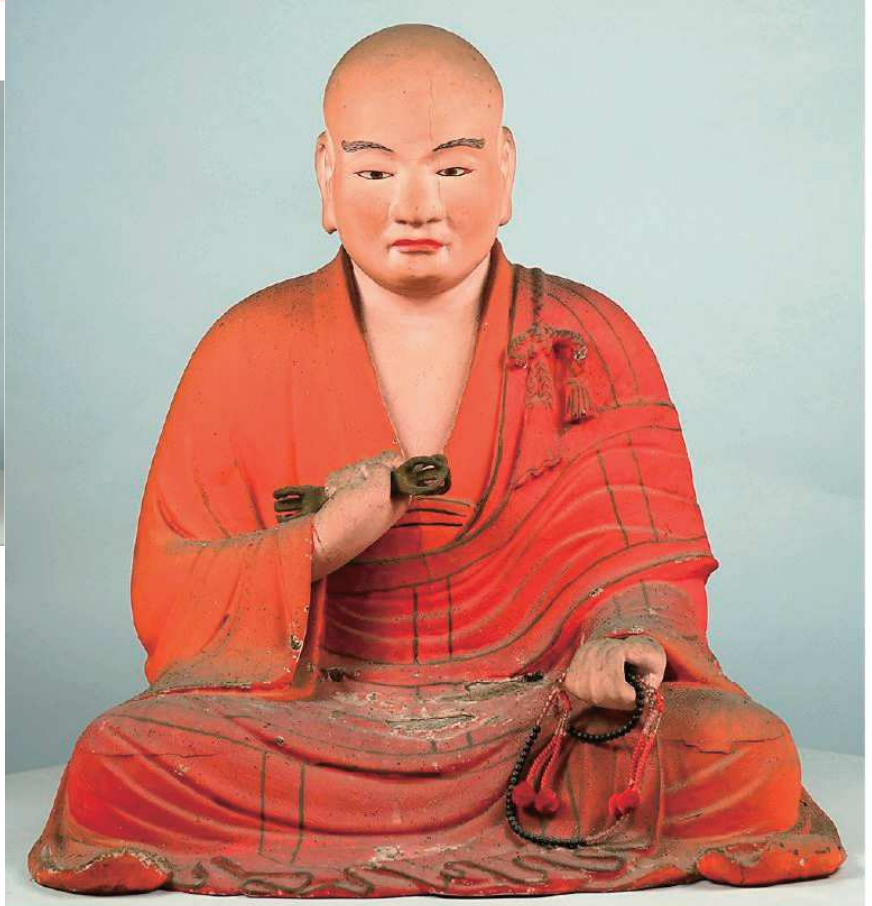
総代世話人の皆さまのご賛同、並びに檀家の皆さまのご協力を得て、令和4年5月17〜21日にかけて有難くも修理をすることが出来ました。心より御礼申し上げます。次頁より詳細をご報告させていただきます。



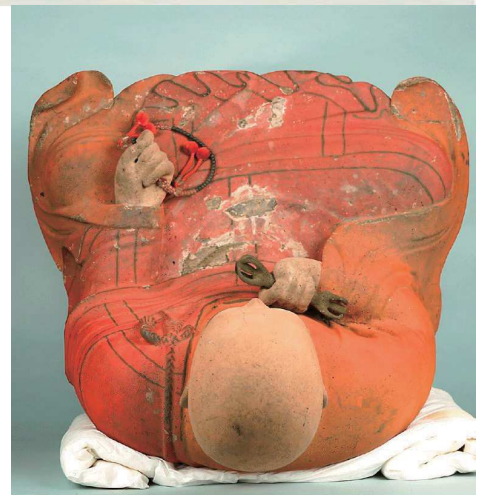
# 修理前写真



〈沓〉  
左沓の踵部に欠失ないし亡失あり。全体に埃が付着していた。仕上げ層に剝落・亀裂がみられる。



〈畳座〉  
全体に埃が付着していた。仕上げ層に剝落・亀裂がみられる。鉄釘・鏝に錆が生じ、木材を一部炭化させている。座面の板に反り・割れが生じている。



【法量】  
 (単位cm)  
 像高 53.5  
 像幅(膝張) 52.5  
 像奥 42.5

【保存状態】  
 ・損傷状況

〈後補・修理痕〉  
 持物(数珠、五鈷杵)。  
 彩色層、矧ぎ目の布貼り  
 や紙貼り。像底に見られ  
 る。黄変した接着剤。  
 〈欠失ないし亡失〉  
 なし。

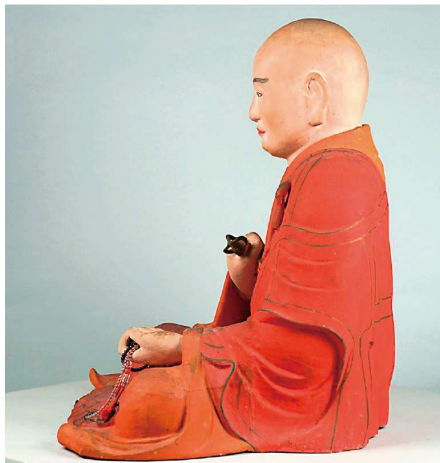
〈脱落〉  
 なし。

〈虫損・鼠害〉  
 両脚部上面生物痕と思  
 われる擦過が見られる。  
 〈汚れ・剝落〉  
 全体に埃が付着してい  
 た。仕上げ層に剝落・亀  
 裂がみられる。

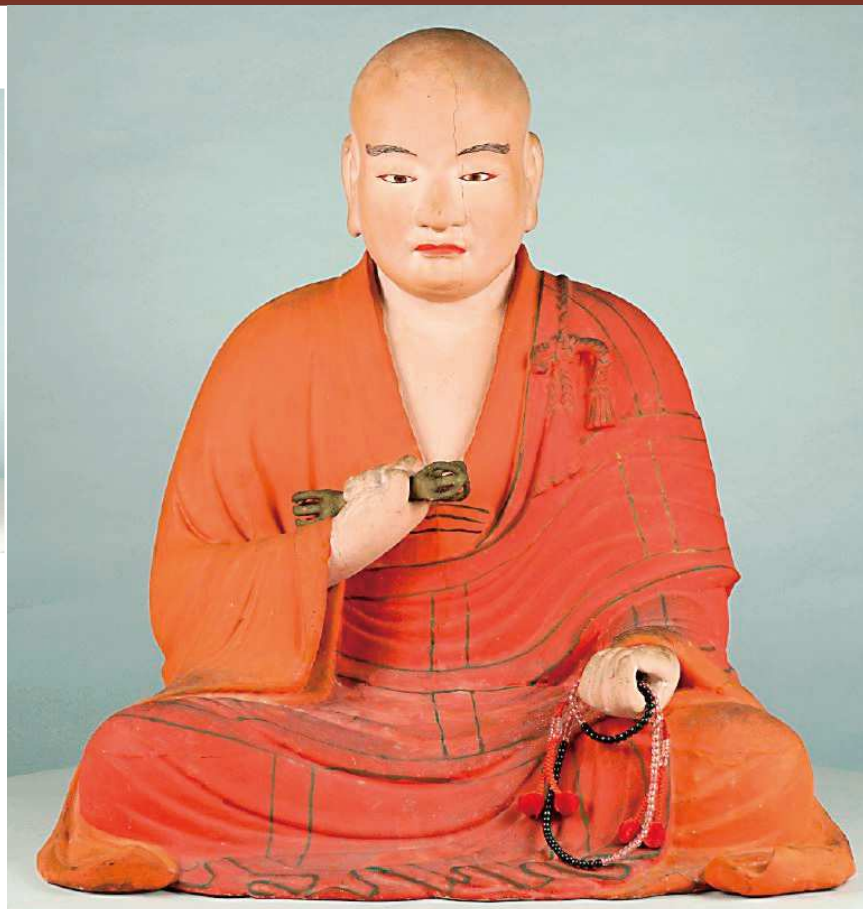
〈その他〉  
 鉄釘・鏝に錆が生じ、  
 木材を一部炭化させてい  
 る。体部と両脚部の矧ぎ  
 目に隙間が生じている。  
 体幹部に芯持の材を用い  
 ているため中心から亀裂  
 が生じている。



# 修理後写真



〈沓〉鑑賞性を妨げている左沓踵の欠失部分を補う。クリーニングと剥落止めの後、欠失部は右沓を参考にヒノキ材で補い、接着には膠を用い、矧ぎ目には木屎漆を充填する。仕上げには胡粉下地の上から周囲の色味に近づけた補彩を行う。



〈畳座〉像の安全な保管のため、台座(畳座)を補強する。クリーニングと剥落止めの後、鉄釘の腐食や、座面の隙間を解消するため、解体し後補の接着剤を除去し、錆びた鉄釘は撤去する。座面に生じる隙間には薄いヒノキ材を嵌め、組み付けには膠と真鍮釘を用いる。仕上げには胡粉下地の上から周囲の色味に近づけた補彩を行う。裏面からは構造補強ためにヒノキの小材を膠で接着する。



【修理方針・仕様】  
 尊容を損ねる彩色層の汚れ、矧ぎ目に生じた隙間、下地や木地の露出を解消する。クリーニングと剥落止めを行う。矧ぎ目に生じる隙間には木屎漆を充填する。木屎漆を充填した箇所、仕上げ層が剥落した箇所には胡粉下地の上から周囲の色味に近づけた補彩を行う。

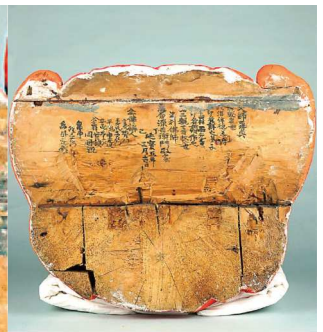
【所見】  
 面部正面にヒビが生じている。頭部を含めた体幹部材が一木であり像底に干割れを確認できることから、木部に生じた干割れが仕上げ層に影響している可能性がある。

本修理事業では尊容を回復するための表面的な処置にとどめるため、手を加えるとかえって修理痕が目立つ恐れがあり経過観察とした。本像の経年劣化に伴い構造面での処置を含む本格的な修理が必要になった際に処置されることを待ちたい。





弘法大師座像底面の拡大



【考察】

弘法大師坐像の  
由緒について

【墨書】

大師再興

成就者也

於謂津徳善寺

法印宥詳之弟子

久千田村西光寺

法印宥讚作文

為二親菩提也

淡州仏師

藤原源右衛門政家

延寶五年

三月吉日

念佛講人

- 
- 
- 

平嶋重太郎

安正 ●●

久千田村宥讚

同 母親

- 
- 
- 
- 

為母逆修

(大意)

ここに弘法大師坐像を修理することができました。

徳善寺の法印宥詳師の弟子久千田村西光寺の法印宥讚が記します。

この寺業は両親の供養のためです。

淡路島の藤原源右衛門政家仏師が修復してくださりました。

丁(十干)

巳(千支)

延寶五(一六七七年)

三月吉日

この寺業にご賛同されお世話・ご寄進下さった方々の功德を讃えて、ここにご芳名を記します。

念佛講人

- 
- 
- 

平嶋重太郎

安正 ●●

久千田村宥讚

同 母親

- 
- 
- 
- 

母の逆修(生前戒名を授かること)のために

宥詳師は当院中興第一世の住職です。徳善寺(徳島市助任に在った寺)から久千田村にきて一六五七年に西光寺の現本堂を再建されました。本堂再建から20年後、その弟子たる宥讚師(当院中興第二世)が墨書を記したことが分かります。

宥讚師をはじめ施主の方々のご両親の供養のために、大師像の修復寺業は進められました。施主の中には、母親が生前戒名を授かるための徳行として喜捨をされた方もみえます。

西光寺は四国第12番焼山寺さまと関係が深く、大師像は焼山寺伝来のものではないか、と先住弘榮師は篤信の檀家さまに語っていたようです。

数百年間、多くの方々が様々な祈りを込め拜んでこられた大師像。どのような由緒であれ、檀家の皆さまと共に祀り、護られ、護っていくべき尊寺宝であります。

# 空海の書

## 風信帖

ふうしんじょう

国宝 尺牘 三通

弘仁三年(八二二年)頃

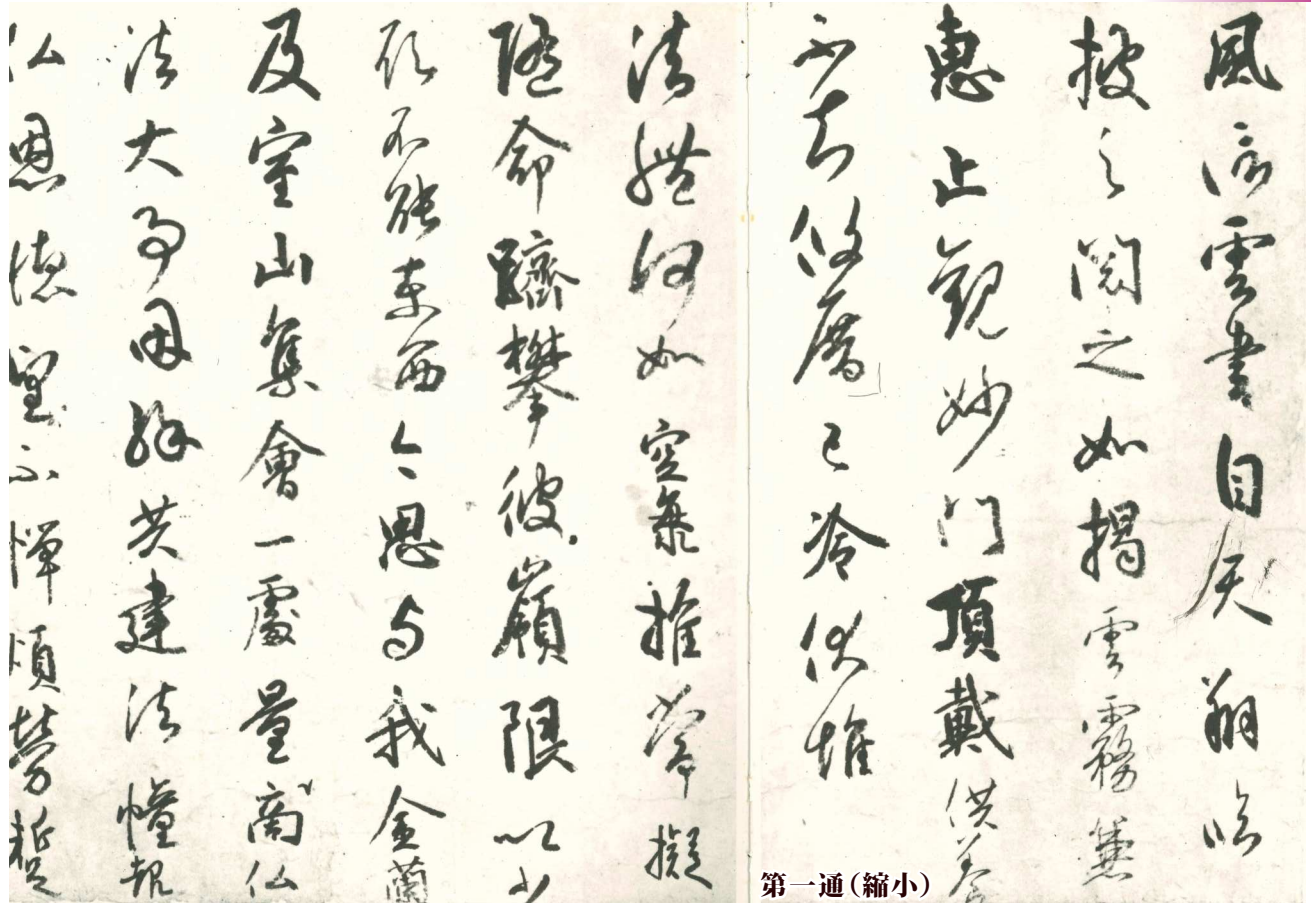
紙本 縦28.8×横157.9cm

教王護国寺(東寺) 京都府



家書 蒼空 田村 誠次

空海が比叡山の最澄に差出した尺牘(せきとく=手紙の事)三通を集めて一巻としたもので、その最初の尺牘の冒頭に「風信雲書」と書かれていたところから、古来からこれを風信帖と呼んでいる。空海の書の中で最も著名な真蹟で最高級に属するものであろう。



第一通(縮小)

空海と最澄は、平安朝の初期の人で共に入唐して最澄は天台宗を空海は真言宗の開祖となった二大高僧であり親密な関係にあったがこの頃、最澄から空海に贈った久隔帖という尺牘が現存しており弘仁四年(八二三年)に書かれたものである。

この風信帖は、もともと五通あったが一通は盗難に遭い、別の一通は関白豊臣秀次の所望によって天正二〇年(一五九二年)これを進上した、と巻末の奥書に見える。

この風信帖は最澄に贈った消息であるから比叡山に伝わっていたが、古い時代に比叡山から東寺に寄進されたものである。

空海の真蹟中の傑作とされる風信帖は、東晋時代の人で書聖と仰がれた王羲之(おうぎし)三〇三(二六二)の書風に加えて唐に滞在中影響を受けた顔真卿(がんしんけい)七〇九(七八五)の斬新な書風の影響が見られる。顔真卿とはその剛直な生涯が反映した独自の書風を確立した人物で、それまでの書の歴史を一新する素晴らしい書を書き残した偉大な人物であり空海も何かの機会にその書を見、共鳴し得たと思う。

この風信帖三通の書風だが、三通ともその書風を異にする。見る人によっては各々別人の書かと思える程である。その点を同時代の最澄と比べた時、大半の人がそうであるように最澄の書はいつ書いた書であっても「これは最澄の書」とわかる。

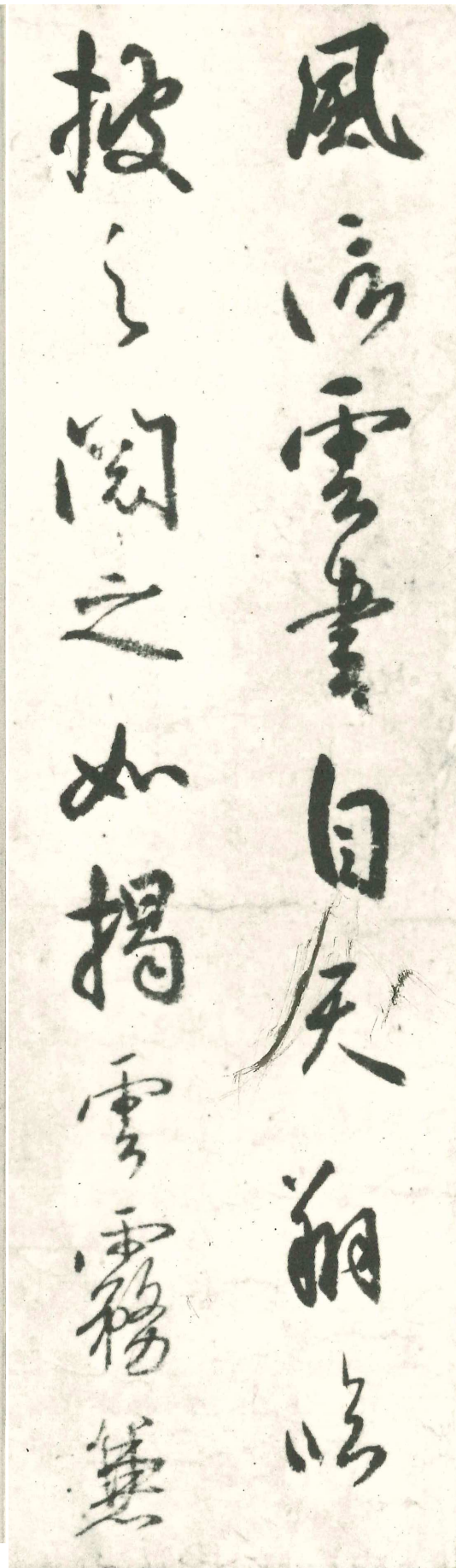


しかし、空海の場合彼は筆を持つ時の心情の変化がその書に表れる為、その趣に変化が大きい。ここに芸術としての書か否かの分岐

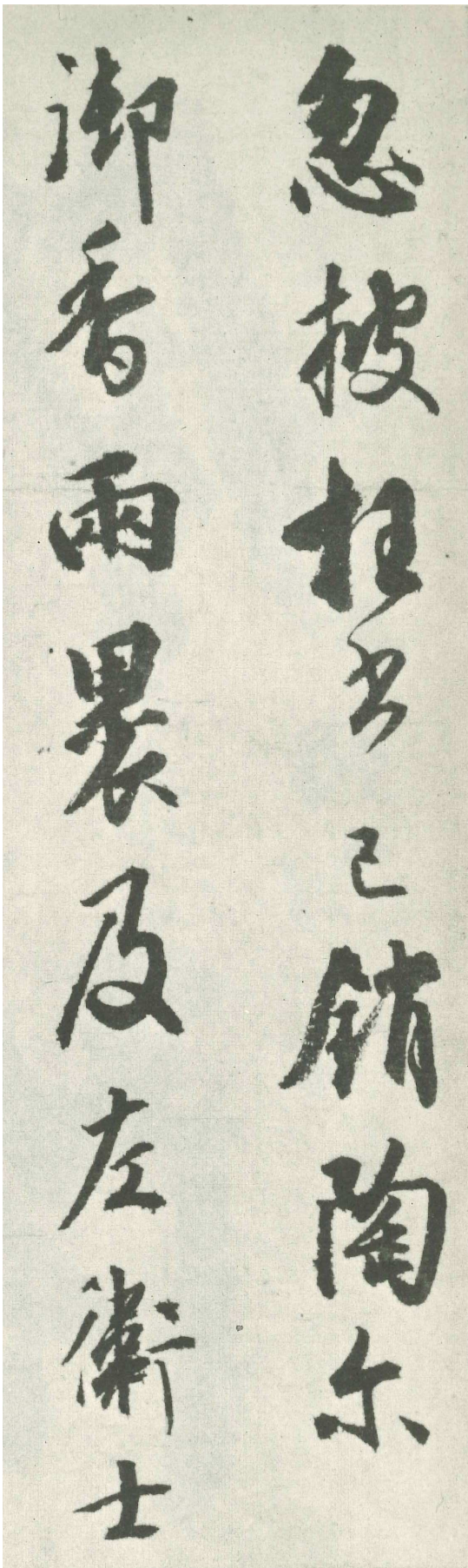
点がある。一般に「書は芸術である」と言われるが、その人のうちなるものが筆跡から伺えてこそ芸術としての書と言える。その点か

らして空海の書は芸術であり、空海は芸術家でもあると言えよう。その書が真の芸術の範疇に入り得るものか否かと言えば、我が国の

長い書の歴史をみてもそれほど多くない。私はそう思っている。

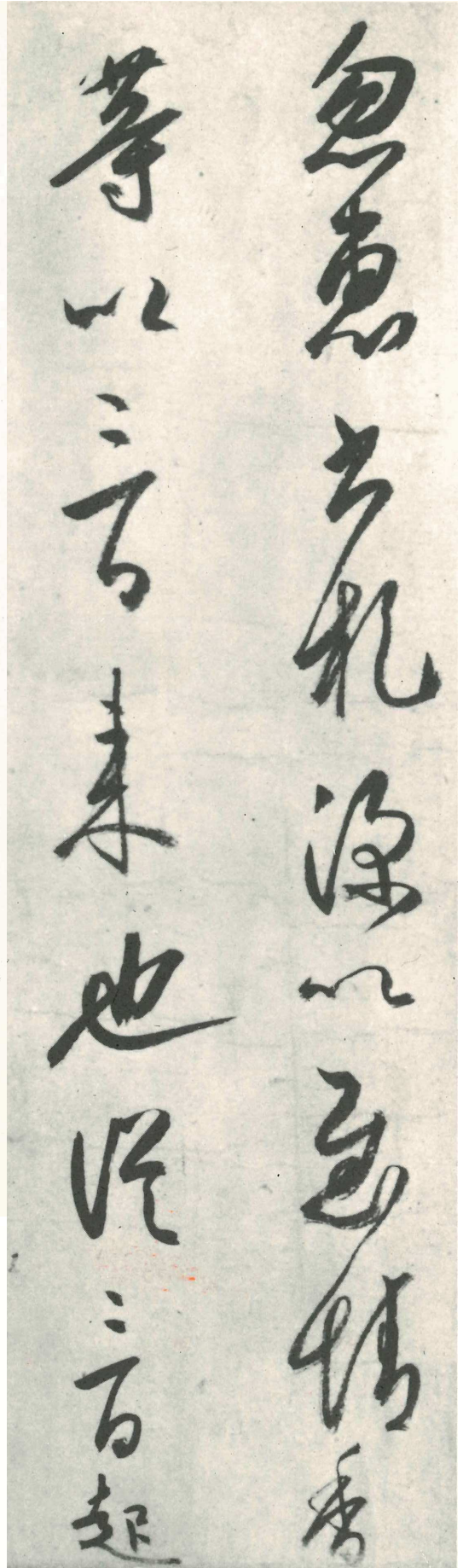


第一通(原寸大)



第二通(原寸大)





第三通(原寸大)

第一通

本文

風信雲書。自<sub>レ</sub>天翔臨。披<sub>レ</sub>之閱<sub>レ</sub>之。如<sub>レ</sub>揭<sub>ニ</sub>雲霧<sub>一</sub>。兼惠止觀妙門。頂戴供養。不<sub>レ</sub>知攸<sub>レ</sub>厝。已冷。伏惟法体何如。空海推常。擬<sub>下</sub>随<sub>レ</sub>命躋<sub>上</sub>攀彼嶺。限以<sub>ニ</sub>少願<sub>一</sub>。不<sub>レ</sub>能<sub>ニ</sub>東西<sub>一</sub>。今思<sub>下</sub>與<sub>ニ</sub>我金蘭及室山<sub>一</sub>集<sub>ニ</sub>会<sub>一</sub>一处。商<sub>ニ</sub>量<sub>一</sub>佛法大事因縁。共建<sub>ニ</sub>法幢<sub>一</sub>。報<sub>上</sub>佛恩德<sub>一</sub>。望<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>憚<sub>ニ</sub>煩勞<sub>一</sub>。暨降<sub>ニ</sub>赴<sub>レ</sub>此院<sub>一</sub>。此所<sub>レ</sub>望所<sub>レ</sub>望。忿々不具。釈空海状上。

九月十一日

東嶺金蘭法前 謹空


第一通(大意)

お手紙を頂きました。拝見いたしますと、雲霧を開き去ったように、心がからつとなりました。また、お手紙と共に、止観の妙門をくださいまして、恭しく頂戴供養し、どうしてよいか身の置きどころも知らない有り様です。このごろ、もうだいぶ寒くなってきました。ご機嫌は如何でしょうか。わたくしはいつもの通りで、別に変わったことはありません。ご来示にしたがって、お山に上りお訪ねしたいとは思いますが、いまは是非しなければならぬ用事だけに限ってみても時間がなく、お訪ねすることができません。それよりもわたくしは、現在、あなたや、室山と共に、何処かにあつまって、一緒に仏法の大事や因縁を談じあい、ともどもに法幢を建てて、仏の恩徳に報いたいものと思っています。どうか面倒がられずに、わたくしの居るこの寺まで、どうぞご足労くださるよう、切に切にお願い申し上げます。忿念不具。



**編集後記**

諸尊修理の勝縁を頂きました。仏師は「つくる」仏像修復師は「なおす」専門職であることをはじめて知りました。今回お世話になりました三乗堂さま(栃木県)は、女性三人の仏像修復師さまです。緻密で丁寧な仕事に感動致しました。仏像修復師の方々は日本の唯一無二で貴重な文化財を未来へ「つなぐ」ために欠かせない存在です。



三乗堂さまポートレート動画


令和4(二〇二二)年  
**お寺の行事予定**

8月 初盆お参り  
15日(月) 仏送り  
午後7時〜

11月21日(月) 弘法大師御影供  
午後3時〜

12月31日(土) 納め護摩  
午後10時〜  
除夜の鐘  
午後11時30分〜

月並行事  
○15日午前10時〜  
ご本尊縁日護摩供  
○第2土曜(昼)写経  
○月1回水曜(夜)ご詠歌  
※写経・ご詠歌休会中




仏壇・仏具・神具・墓石・石材工事

**ぶつだんのもり**

お問合わせ、ご注文は  
**☎(088)641-3222**  
〒771-1155 徳島市応神町  
西貞方字仁徳48-1(応神店)



メガネ・補聴器・宝石・時計

**ジュエリー サトウ**

あなたの快適ライフを応援します。  
阿波町大原11-1  
**☎(0883)35-2306**



料理

**魚安**

営業日/ 月~日曜日  
定休日/ 火曜日  
営業時間/ 夜.17:00~  
阿波町庚申原121  
**☎(0883)35-7260**

各宗派葬儀・御法要・花環・箆盛等

**セレモニーはやし**

阿波町丸山3-2  
**☎(0883)35-2073**  
**FAX(0883)35-2736**

セレモニーホール

**マルミヤ**

(会館葬儀・自宅葬儀・寝台車・花輪)  
市場町山野上字大西181-1  
**☎(0883)36-7111**  
**FAX(0883)36-7035**

**第69回徳島駅伝**

阿波市駅伝チームは次回大会に向けて、練習に励んでおります。

新年正月に阿波市内を通過します。  
沿道で応援を  
お願い致します!!




**太龍寺ロープウェイ**

ロープウェイで **らくらく参拝**

四国八十八カ所21番 **太龍寺**  
こんぴら奥の院 **箸蔵寺**

四国八十八カ所66番 **雲辺寺**  
四国八十八カ所85番 **八栗寺**



**八栗ケーブルカー**